

2024 年第 51 週の報告です。

今週、インフルエンザが急増しました。全国の定点当り報告数は 42.66・京都府は 35.46 に増加し、流行発生警報の基準値の 30 を上回りました。京都府内の保健所別でも 5 分の 7 にあたる保健所で警報基準値を上回り、それ以外の基準値には満たない保健所でもすべてで注意報基準値を超えました。山城北の咽頭結膜熱・京都市右京区の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は今週も警報レベルが継続。その他、新たに京都市西京区で伝染性紅斑が警報レベルに、京都市右京区で水痘が注意報レベルになりました。眼科定点は流行性角結膜炎が 13 件、基幹定点はマイコプラズマ肺炎 11 件が報告がされました。

全数報告対象の疾患は 2 類の結核が 8 件、4 類の A 型肝炎が 1 件、レジオネラ症が 2 件、5 類は急性脳炎・劇症型溶血性レンサ球菌感染症・百日咳がそれぞれ 2 件、後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)・麻しんがそれぞれ 1 件、梅毒が 4 件報告されました。

インフルエンザが急増しています。年末年始、帰省等で普段と違うコミュニティの人に会う機会も増えると思います。特に高齢の方など免疫力の低下した方に会う場合は、体調管理や感染対策を徹底してください。

また麻しん（はしか）の報告もありました。麻しんウイルスは、「基本再生産数（R0; 免疫を持たない集団の中で、1 人の感染者が平均して何名の二次感染者を発生させるかを推定した値）」がインフルエンザ（R0 1-3¹⁾）等に比べて高く（R0 12-18）、WHO はアウトブレイクを防ぐうえで集団における麻しんワクチンの 2 回接種率を 95%以上に保つ必要があると主張しています²⁾。京都府の 2023 年の麻しんワクチン 2 回接種率は 91.1%でこの基準を下回っていますので、全 2 回のワクチン接種が未完了の人はこの機に接種完了をご検討ください。また発熱・発疹など、麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に連絡のうえ、速やかに受診してください。

▶麻しんに関する京都市の発表：[京都市：麻しん（はしか）患者の発生に伴う注意喚起](#)

- 1) 厚生労働省 資料 1 新型インフルエンザに関する基礎的データ 2009.7

<https://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/dl/infu090828-01.pdf>

- 2) WHO Immunization Agenda 2030: A Global Strategy to Leave No One Behind (P21)

https://cdn.who.int/media/docs/default-source/immunization/strategy/ia2030/ia2030-draft-4-wha_b8850379-1fce-4847-bfd1-5d2c9d9e32f8.pdf?sfvrsn=5389656e_69&download=true